

「落ち花拾い」

僕達の学校では放課後に道路清掃を行っています。道路清掃とは、月一回、放課後に生徒の中から希望者を募って、ほうき片手に道路をきれいにするという活動です。この活動は、先輩方から伝わる、羽島中学校の伝統的な取り組みです。一見大変そうですが、実際に参加すると、とてもやりがいを感じます。

話は変わりますが、僕は陸上部に所属しています。ある日、部活動の一貫で学校外に走りに行きました。羽島の素晴らしいオーシャンビューを見ることができる、サンセットパークまでの坂道の帰りで、いまにも倒れそうなくらい疲れていました。学校まで、あと少し、やっと着く～と思ったその時。イチヨウのような見た目の大きな木から、ひまわりのような美しい黄色の花が道端にたくさん散っていることに気がつきました。足が痛くて、きれいな一と感じる余裕もなく、歩道に散らばる黄色の花を避けるように車道を走りました。ふと、横を見ると、一人のおばあさんが、杖をつきながら、散った花々を集めて袋に詰めている姿がありました。部員3人と先生1人の4名でランニングしていたぼくらは、疲れて下ばかり見ていた顔をあげて、視線を交わしました。そして、誰かが合図するわけでもなく、みんなピタッととまり、荒い息遣いで、

「手伝いましょうか」と言いながら、みんなすでに、手を動かしていました。

自然と、手伝ったのは、間違いなく、日頃から、道路清掃に取り組んでいたからです。落ちた花を拾う、そのことには何の抵抗もありませんでした。おばあさんと、世間話を交わしながらの、落ち花拾いは、たぶん10分程度の出来事でしたが、とても楽しく、気持ちのいいものでした。道路をきれいにできたということもですが、おばあさんのお手伝いができたこと、喜んでもらったことが、とてもうれしかったです。

この出来事を振り返って、二つの気づきがありました。

まず、ボランティアを日頃していることで、僕達の意識まで変わっていたこと。ボランティアってハードル高いな～って思っていた僕が、こんな自然と、おばあさんの力になれたことがうれしかったです。ボランティアって、誰かが喜んでくれることをすること、誰かを手伝ってあげること、そんななにげないことの延長なのかもしれないな～と思いました。

もう一つは、おばあさんにかけてもらった言葉です。「ありがとう」と、おばあさんは、数え切れないほど口にしました。感謝されたいからしているわけではないけど、やっぱり、喜んでくれる人がいる活動には力が入ります。僕たちは、学校でエコキャップ回収をして、ワクチン寄付を行っています。どんな人に届いているのか、とても気になっています。

「喜んでいるのかな？」「僕たちの思いが届いているのかな？」そんなことを考えています。手紙でも送ってみようかなと思っています。

これからの第76代羽島中生徒会は、ボランティアをして満足、ではなく、この僕たちの熱い思いを届け、僕たちボランティア参加者と、ボランティアで喜んでくれる人の思いをつなげる活動に力を入れていきたいと思えます。

あの道路を走るたびに、おばあさんとの落ち花拾いの記憶がよみがえります。今日もまた、あの木の前を走ります。また、あの季節がくるのを待ちながら。